

令和3年度 群馬県立農林大学校評価システムシート

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成							
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行					達成度		
						A		100%	
						B		80%以上100%未満	
						C		60%以上80%未満	
						D		60%未満	
番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策		外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行	<p>1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。</p> <p>2 課題解決型の研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育んでいる。</p> <p>3 1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育んでいる。</p> <p>4 農林業の国際化や技術・情報の高度化、農業の6次産業化に対応できる技術の習得や組織活動等のマネジメント能力を養成するため、実践学習を強化し、取り組んでいる。</p>	<p>・学生にとって分かりやすい授業の実施</p>	<p>・授業評価に基づく授業方法の改善 R3: 教養科目・共通科目の授業アンケート (R2 コース専門科目)</p> <p>・よりよい授業のための職員への支援 (職場研修、派遣研修)</p> <p>・DXを活用した、効率的でより効果が高い指導方法の推進</p>	<p>・授業アンケート 教養・共通専門科目: 前期17科目、後期25科目実施 結果については、経営企画会議で結果の分析と対策を検討するとともに、評価の低い講師には個人指導により改善を求めた。(9月、2月) ※ ネット集計により作業の効率化を図った。</p> <p>・職場研修 授業のすすめ方研修(4/22: 新任指導職員9名) 授業研究月間の実施(11月～12月) 学生に「より質の高い授業」を提供するため、新たに授業研究月間を設定し、本年度赴任職員等(8名)を対象に、先輩職員によるアクティブラーニングの授業参観を実施した。 ・新規採用職員研修(5～8月: 1名) ・草刈り機安全研修(5/28: 12名) ・指導力強化発展研修会(農水省) (Web研修: 8月1名、10月3名)</p>	<p>・授業アンケート コース専門科目: 前期15科目(7月)、後期18科目(1月)実施 授業改善に役立てるため担当講師に結果報告 職員会議で結果の分析と対策を検討(2月)</p> <p>・職員のスキルアップを目的に来年も職員研修を計画的に実施</p> <p>・指導力強化発展研修会(農水省)等、実施。</p>	<p>・授業アンケートにより評価の低い講師に改善と求めた、とありますが、必要な取組だと思えます。対象講師数は、何名だったのでしょうか。</p> <p>・第1回の意見でも申し上げましたが、「具体的方策及び…」の欄で、「よりよい授業のための職員への支援」は、→「よりよい授業のための職員の資質向上」という表現が適切かと考えます。</p> <p>・初めて赴任する職員へのアクティブラーニングのOJTは、効果の高い方策だと思えます。継続して取り組んでください。</p>		
		<p>5 国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。</p> <p>6 平成31年3月に、新たな施設園芸経営の形を創造する拠点として「ぐんまイノベーションファーム」が農林大に設置された。IoTやICT、DXを活用した最先端の技術を授業に取り入れることにより、地域農業を牽引する優れた経営者の育成をめざすとともに、地域に開かれた実証モデル施設として最先端技術を発信している。</p> <p>7 新型コロナウイルスのまん延により、新しい生活様式に対応した教育が求められている。</p>	<p>・学生がやる気と自信の持てる教育</p>	<p>・能動的に学ぶ力を育てる アクティブラーニング型の授業導入 (授業の1/3で実施)</p> <p>・課題研究・意見発表等への取組の強化 (全国大会出場を目指す)</p>	<p>・アクティブラーニング 授業のすすめ方研修(4/22: 新任指導職員9名) 授業研究月間の実施(11月～12月) 学生に「より質の高い授業」を提供するため、新たに授業研究月間を設け、本年度赴任職員等(8名)を対象に、先輩職員によるアクティブラーニングの授業参観を実施した。(再掲)</p> <p>・課題研究 各コース2回の中間検討会、校内課題研究発表会を経て、12月に実施した代表課題研究発表会の結果により、関東ブロック実績発表会に3名(野菜、花き・果樹、酪肉)を派遣。このうち1名(花き・果樹)が3位となり、全国大会へ出場した(優良賞)。 ・森林・林業技術等交流発表会(2/16.17: 関東森林管理局)において、1名が優秀賞受賞</p> <p>・意見発表 キャリアデザイン I で作文・小論文指導(4回) 12月に実施した代表課題研究発表会の結果により、関東ブロック実績発表会に1名(酪肉)を派遣。</p> <p>・各種懸賞論文への応募 キャリアデザイン I で作文・小論文指導(4回) 夏休みに1人1課題の作文を作成し、「ヤンマー学生懸賞作文」へ応募。3名が奨励賞を受賞(野菜、酪肉)。</p> <p>・学校農業クラブ各種発表大会(新型コロナウイルス対策として不参加)</p> <p>・先進農林家等体験学習 実施期間中にまん延防止や緊急事態宣言が発令されたことから、当初の予定の9月までに終了できない学生については、12月まで延長する措置を行った。これに伴い、コースごとの報告会を年内に1～2回実施。それに間に合わない学生については、2月に合同報告会を実施した。 ・令和4年度の先進農林家等体験学習について、令和4年2月に計画していた合同開校式は、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が実施されたことから中止とし、研修先との調整等は個別対応とした。</p> <p>・雇用就農・林業へ就業を希望する学生のインターンシップを兼ねた研修先の選定(農業系: 7名、林業系: 7名)。 ※ マッチング実績 農業系4名 森林5名</p>	<p>・職員スキルアップを目的に、引き続き、授業研究月間を実施し、アクティブラーニングの推進を図る。</p> <p>・課題研究と意見発表 中間検討会を2回行う予定だったが、花き・果樹コースについては、新型コロナウイルス感染症の影響から、1回のみ開催であった。 来年度も計画的な指導により、関東大会、全国大会を目指す。 校内課題研究発表会(11/24・25) 代表課題研究発表会(12/15: 群馬会館) 関東ブロックプロジェクト発表会(1月: 山梨県) 全国プロジェクト発表会(2月未定)</p> <p>・計画的に指導</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、本年度同様、臨機応変に実施する。</p> <p>・雇用就農を希望する学生はインターンシップを兼ね研修先を選定。</p>	<p>・学生本人に面接等で興味があることや習得したい技術を直接聞き込みし、一人一人の考えを把握する。</p> <p>・課題研究、実績発表で全国大会出場、評価できます。課題の選定、実施方法、発表方法の工夫など、積極的に取り組んで、連続出場を目指してほしいです。</p> <p>・今年度は、授業の様子を見ることができず、残念でした。次年度は、是非参観できればと思っています。</p> <p>・すばらしいです。頑張ってください。</p> <p>・課題研究、意見発表、懸賞論文などは、日頃の成果を発表するのみならず、自分の考えをまとめたりする絶好の機会だと思えます。さらには、学生の自信、やり甲斐にも繋がると思えますので、全国上位入賞を目指し頑張ってください。</p> <p>・先進農林家体験学習は、コロナ禍の中、難しい運営を強いられたと思えますが、農林家との円滑な調整などにより無事所期の目的を達成でき高く評価します。</p>		

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
				<ul style="list-style-type: none"> 国際水準のGAPを実践 各コースで農林大GAPの内部審査を実施 実習等におけるリスク管理意識の向上 スマート農業の実践 DX活用による効率的な農業の実践 6次産業化学習の強化 販売学習、地域等と連携した商品開発 プレゼンテーション能力の向上 1分間スピーチ 基礎学力向上 実習等で必要な学び直しの補講の実施 学業優秀者、生活態度優秀者等の表彰 	<ul style="list-style-type: none"> GAP 野菜コース露地野菜専攻でASIAGAP維持審査実施(9/22) 国際水準のGAPを学ぶカリキュラムを実践 3月に全コースで、農林大GAPに基づいた審査を実施予定。 実習等における作業安全性の向上を目的に、過去に校内で発生した「ヒヤリハット事例の収集・整理」を行った。 イノベーションファーム 視察受け入れ 農業者等(8回:100名) " 農食コース(2回×18名) 課題研究数 (野菜) キュウリ 2課題、トマト 2課題、イチゴ 3課題、パプリカ 1課題、 スイカ 1課題 (花き) バラ:共同研究に向け農業技術センターと会議(2回) スプレーグク、ヒマワリ、あじさい、花壇苗、その他 各1課題 全コースでスマート農林業を学ぶカリキュラムを実施 ドローン研修(農食コース1回、森林コース1回) ラジコン草刈り機研修(1回) イオンにおける販売学習(6/25、10/15、12/10実施) シクラメンと野菜の販売会(12/3) 地元企業と連携したサツマイモ(シルクスイート)の苗生産 (16,750本) 農食コースでは、そば栽培とともにそば打ち技術の習得を行っている。 そば打ち検定結果 「全麺協群馬支部大会」で 2段に2名が認定。うち1名は最優秀者として東日本支部そば道段位別腕自慢大会に出場予定だったが、新型コロナまん延防止により中止。 「そばづくり技能検定in沼田」において、初段8名、2段6名が認定。 来年度、町内に出店予定のコープデリ生活協同組合連合会と本校生産物等の販売連携の検討を進めたが、行政的な課題から実現は難しいとの結論に至った。 特別講演会 前橋市内で牧場とチーズ工房を立ち上げた、「ThreeBrown」の松島薫氏を招き、夢の実現に向けた取組について講演いただいた キャリアデザインIで指導と発表(1年生:74名) キャリアデザインIIで指導と発表(2年生就職班:61名) 代表者による1分間スピーチ 7/30 1年生、2年生 各5名(学年集会) 12/24、2/22 1年生 各5名(学年集会) 計算力の確認(学び直し) テスト(前期4/14・15、後期9/30)を実施し、基準に達しない者と希望者を対象に本校職員による補講を実施。これにより、後期受講者は、前期に比較し、1年生3割減、2年生4割減となった。 1年生(8回×2シーズン) 前期 13名 → 後期 9名 2年生(3回×2シーズン) 前期 12名 → 後期 7名 英語I・II(希望者を対象に実施) 英語I(前期12回)16名 英語II(後期12回):5名 各種褒賞等授与式で表彰予定(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> GAP 野菜コース露地野菜専攻でASIAGAP更新審査実施 他コースについても、農林大GAPに基づいた内部審査を行う。 課題研究で取り組むなどして、学生、職員の意識を高める。 農作業安全月間等に合わせ、コース長会議で事例検討。 イノベーションファームの施設受入れにより、環境制御技術の県内農家への普及の一翼を担う。また、全コースを対象に視察を受け入れ、スマート農業への理解を深めてもらう。 先端技術の知識・技術習得を計画的に進める。 販売学習 イオン高崎店での直売会 (3回) 花と野菜苗の販売会(5/上) サツマイモ苗生産については、継続して実施 そば打ち検定に向けた技術指導 生産物の高付加価値化に向け、農林大オリジナルパッケージの作成。新たな販売方法の検討。 外部講師による特別講演会(六次産業化) 学年集会における発表 計算力の確認(学び直し) 継続して実施 希望者を対象に実施する 各種褒賞等授与式で表彰(3月) 学業成績優秀者 生活態度優秀者 	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業に関しては、現場でも導入が相当なスピードで進んでいます。最先端の実践的な技術・知識を学べる場として、更なる取組強化をお願いします。 様の本祭で、そば打ちの実演を見ましたが、見事でした。 農産物の農林大のオリジナルパッケージ、期待しています。 イオンにおける販売学習の際には、お手数でもPRの一環として関係者、保護者に御一報いただくとよいかと思います。学生の頑張る姿を直に目にしたい人も多いのではないのでしょうか。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の基本を身につける 心の健康相談の実施 学生、職員一体となったあいさつ運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーによる支援(4~2月:22回 延べ63名) 生活相談員による指導(周年) 1年生 メンタルヘルスマスク(5月) 1年生 校長面接(11~12月) 1年生 コース三者面談(11月~1月) 本年度新たに、1年生を対象とした「教育相談のための総合調査」を実施し、学生指導、支援に活用した。 登校時における教育棟玄関での声かけ 生活指導職員による登校時の声かけ 職員からの積極的な声かけ 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーによる支援 生活相談員による指導(周年) 校長面談、3者面談の実施 全学生を対象に「教育相談のための総合調査」を実施 継続して行う 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動の効果は確実に出ていていると思います。農林大を訪問するたびにそう感じます。気持ちよいです。 学生にとって、もっとも重要なのは、充実した寮生活だと思います。 		

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
			・地域、外部機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献等 箕輪城周辺の環境整備 地元小学校との交流 子ども食堂との連携による食育 ・農業技術センターとの連携による害虫発生予察情報(果樹関係)の提供 ・イノベーションファームの活用 農業技術センターとの連携による最新技術の実証と普及 ・農林大学校創立100周年記念事業に向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生への花づくり指導 箕輪小5・6年生170名対象(10/15:学生8名参加) ・箕輪学校給食センターへキュウリ、キャベツ、コボウの納入開始(4月～) ・子ども食堂へ食材の提供 33回(3月予定含む) ・地元JANAS生産者の視察受け入れ(8月) ・4月から10月末まで週1回のペースで学生が果樹園内の害虫発生状況を調査し、農技センターに報告。 ・イノベーションファーム(再掲) 農業者等視察受入(8回:100名) パラの共同研究に向け農業技術センターと会議(2回) ・GAP視察受入れ ・渋川地区農業青年クラブ受入れ(11/29) ・高校専門教育研修講座(総合教育センター主催)の受入れ(8/6:8名) ・伐倒練習機を活用した林業労働安全研修(森林組合連合会主催)の受入れ(2回) ・記念誌については、年度内完成、発送予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生への花づくり指導 ・学校給食、子ども食堂へ食材の提供 ・害虫発生調査の連携 ・令和4年度ジャパンフラワー強化プロジェクト事業での連携を行う(パラ)。 ・森林組合連合会主催の林業労働安全研修の受入れ ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和4年10月21日(案)に延期することを実行委員会で決定(R3年4月28日)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ、農林大卒業生との交流を行ってほしい(コロナウイルス感染症が落ち着いたら) ・子ども食堂への33回に及ぶ食材の提供、評価できます。 ・学校や学生と地域や外部機関との連携は、お互いにメリットも多く、思わぬ化学反応が起こり得るものも、たくさんあると思います。準備が大変なこともあるでしょうが、お互いの宝を磨き合っていけたらいいですね。 	
			・教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・DX活用による効果的な学習の実践 ・Webによる発表会や就職試験等への対応強化 ・寮における学習環境の改善 ・キャンパスの環境美化 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育棟エアコンの改修 ・農林大スタジオ内に、Web面接用デスクを整備。 6月以降27回の利用(企業面接11回、説明会等16回) 関東ブロック実績発表会および、全国大会がWeb開催となったため、スタジオや情報処理室を活用し対応。 ・黎明寮の改修により、新型コロナウイルス感染症対策として一時的に利用していた研修館を閉鎖し、寮を校内にまとめることで寮生活の利便性を図った。(12/2引越し) ・寮内Wi-Fi環境の充実 ・農林大PDCAの実践 本校で実施している主要なイベントをより良いものとするために、開催後の反省、意見出し、それに対する改善策の検討などを行うための手順を整理した。本年度は、榛の木祭、スポーツ大会、榛名登山、代表課題研究発表会、入校試験、卒業式(予定)で実施し、コース長・係長会議で検討した。 ・毎月学生、職員で清掃を実施 ・花壇の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育棟トイレの改修 ・教育棟のほぼ全教室でインターネットが利用できる環境が整うことから、情報収集だけでなく、農業におけるDX化に対応した人材育成を進める。 ・寮内にコピー機を設置し、学習、就職活動等支援の一助とする。 ・農林大PDCAの実践 入校式、榛名登山、オープンキャンパス、スポーツ大会、榛の木祭、代表課題研究発表会、入校試験、卒業式を対象に実施する。 ・毎月学生、職員で清掃を実施 ・花壇の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・農林大PDCAの実践、校内重要イベントの改善の継続により、よい学びの場が実現できるのだと思います。 ・昨年同様、コロナ対応でご苦労の多い一年だったと思います。職員の皆さんの御尽力に心から敬意を表します。 ・授業や発表など、様々な場面でWebの活用が進んでいます。相手により理解してもらうためのプレゼン能力、資料作成などがますます重要になると思いますので、引き続き積極的な御指導をお願いします。 	
			・新型コロナウイルスに対応した学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の継続を基本に、警戒度等に応じた指導体制の見直しや教育環境、施設環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂の机に、新たに個食用のパネルを設置。 ・教育棟教室に換気扇設置 ・新型コロナウイルス対策マニュアル見直し(随時) ・緊急事態宣言の発令を受けて、夏期休業を9月12日まで延長し、その分、コース対応日を調整し、9月中に期末試験を実施することで、後期については、計画どおりの日程でスタートすることができた。 ・先進農林家体験学習の実施期間を延長したことで、全員が26日間の研修を終えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・警戒度に応じた対策を講じた上でのイベントの開催 榛名登山、榛の木祭、スポーツ大会、販売会 等 ・学生等が充実した大学生活を送れるよう、安全、安心に配慮しつつ、新型コロナウイルスまん延以前の状況に戻すための検討、努力を行う。 		
		(数値目標と評価)	◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 教養・共通専門科目:17科目実施(7月) (おおむね満足以上評価 75%) ・後期 教養・共通専門科目:25科目実施(1月) (おおむね満足以上評価 78%) 	B		・学生の授業満足度の評価が、昨年に比べるとやや低下しているようです。原因などを明確にし、引き続き学生に分かりやすい、満足度の高い授業を行ってください。	
			◎アクティブラーニング型授業の導入 8科目(各コース1科目以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜コース 4科目 花き・果樹コース 4科目 ・酪農肉牛コース 2科目 農と食のビジネスコース 3科目 ・森林コース 4科目 社会人コース 1科目 (共通専門1科目含む) 	A			
			◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会に1名が出場し優良賞(全国農業大学校協議会長賞)受賞 	A		・課題研究では、関東ブロックでの上位入賞おめでとうございます。学生の頑張りをもとより、職員の皆さんの御尽力に敬意を表します。	
			◎懸賞論文等への応募者(森林コース除く) 1年生 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生53名がヤンマー懸賞論文に応募(森林、社会人コース除く) 応募者 90% 入賞者3名 	B			

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
2	実績の上がる学生募集の実行	<p>1 少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRにより3年連続で8割程度を確保している。(平成31年度86名、令和2年度83名、令和3年度78人:定員100名)</p> <p>2 近年の入校生の状況は、非農家出身者が増加(令和3年度入校生:76%)していることと、女子学生が年々増加し、42%を占めている。</p> <p>3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(令和3年度入校生:62%)であり、農業高校との連携とともに、普通高校へのPRが重要となっている。</p> <p>4 新型コロナウイルスのまん延により、これまでのようなPR活動が難しいため、新しい生活様式に対応した効果的な方法を検討する必要がある。</p>	農林大学校のPR	<p>・新しい形のオープンキャンパスの開催</p> <p>・県内高校への学生募集訪問 幹部職員等による学校訪問(7月・9月)</p> <p>・情報発信の強化 学校案内やHPによるPR (動画の導入) イノベーションファームの活用 (最新技術が学べる施設のPR)</p> <p>・全寮制に対する不安解消 在校生から寮生活の楽しさを伝える (学生メッセージを送付)</p>	<p>・新しい生活様式に対応(定員制かつ職員のみでの対応) 延べ74名 第1回(8/3:AM18名) 第2回(8/3:PM23名) 第3回(8/4:AM20名) 第4回(8/4:PM13名) 第5回(9/4:中止) 第6回(9/4:中止)</p> <p>・農業高校訪問(6月:9校、9月:9校) ・高校訪問(6月34校、9月:34校) 学生募集の案内 ・高校進路説明会参加(1月末まで27回) 4/23高崎商科 5/26富実 6/3尾瀬 6/3利根実 6/4藤北 6/8嬌恋 6/9榛名 6/15前工 6/17新田 6/17吾中 6/18大泉 6/24桐生一 7/2万場 7/6尾瀬 7/14吾中 8/27藤北 9/28沼田 10/1勢多 10/21長野原 11/9尾瀬 11/10万場 11/15常盤 12/7大泉 12/15利根商 11/22藤北 1/18富実 1/19太田フレックス</p> <p>・動画での情報発信をスタートしたものの、容量の問題からスムーズな配信ができなかった。 ・タイムリーかつ細やかなHPの定期的な更新が進まなかった。 ・イノベーションファーム(再掲) ・視察受け入れ 農業者等(8回:100名)</p> <p>・学生生活のメッセージを作成し、出身校へ送付して高校生の不安解消とPRに努めた 1回目 7月 11校 14名 2回目 12月 8校 10名 ※公務員合格者</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し実施。</p> <p>・計画的に実施</p> <p>・来年度、スマホ対応のHPに改修するため、それに合わせ改善する。</p> <p>・イノベーションファームについては、県内施設園芸農家への情報提供の場として、引き続き積極的な視察対応を行う。</p> <p>・継続して実施</p>	<p>・JA全農ぐんま、中央会、農協青年部等への協力要請</p> <p>・コロナ禍の中での学校訪問、ご苦労さまでした。前年を上回る入校者の増加につながっていると思います。</p> <p>・費用等の問題もありますが、将来の農業の担い手を増加させるためにも、群馬テレビ、FMぐんま等のメディアへの参加を学生にもらい、学校のPRをしてもらう。</p> <p>・コロナ禍でのPR活動は、大変だったことと思います。でも、そんな中でも、動画での配信やイノベーションファームの活用など、工夫も見られました。スムーズに配信できなかったとしても、問題点が見つかり、次回へとつながっていけば、すばらしい一歩だと思います。</p> <p>・今後、HP、SNS等による情報発信がますます重要になると思います。その点、本年度のHPの更新が低かったのは残念な結果でした。原因を明らかにし、しっかりと対策をとってください。</p> <p>・可能かどうか分かりませんが・・・校長先生による、ちょっとした学校の様子、学生との触れ合い、学校周辺の季節、風景の移り変わりなどをfacebookに投稿してみるのも面白いのではないかと思います。</p>	
			農業高校等との連携強化	<p>・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化</p> <p>・学校見学会の積極的な受入れ</p> <p>・職員派遣講義による高・大連携の強化</p> <p>・全寮制に対する不安解消(再掲) 在校生から寮生活の楽しさを伝える (学生メッセージを送付)</p>	<p>・高等学校職員による農林大見学研修会(7/1) 13校 14名 ・高校生のためのチャレンジセミナー(12/10) 7校 27名 ・学校教育と行政との連絡会議 中止</p> <p>・学校見学の受入れ(3回) 6/16:3年生4名 尾瀬 8/31:3年生6名 伊興 10/25:3年生1名 KTCおおぞら</p> <p>・県内高校へ派遣講義の案内を配布 11/18 渋川高校 12/17 新田暁高校</p> <p>・学生生活のメッセージを作成し、出身校へ送付して高校生の不安解消とPRに努めた(再掲) 1回目 7月 11校 14名 2回目 12月 8校 10名 ※公務員合格者</p>	<p>・継続して実施</p> <p>・随時実施</p> <p>・継続して実施</p>		
			(数値目標と評価)	<p>◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者120名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上80%以上</p> <p>◎高校訪問 43校 2回実施</p> <p>◎HPの更新回数 100回以上 動画の配信 10回</p> <p>◎入校生の確保 80名以上</p>	<p>・オープンキャンパス参加者 実参加者(全4回)実74人 ・参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上 97%</p> <p>・7月・9月(53校) ※コロナ禍における見直しにより、幹部職員、教務係のみで対応。</p> <p>・更新回数 35回 ・動画の配信 2回</p> <p>・入学予定者数 83名 (R4.3.8現在)</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>D</p> <p>A</p>	<p>・HPの更新回数等の目標設定は、妥当でしょうか。</p> <p>・HP更新、動画の配信がD評価ですが、Dだと思っているからこそ、次回は必ずよくしてくれると信じて期待しています。頑張ってください。</p> <p>・入校予定者も近年、着実に確保されています。引き続き、魅力ある大学校作りに邁進してください。</p> <p>・HPIについては、上段に記載しました。</p>	

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
3	実績の上がる進路指導の実行	<p>1 令和2年度卒業生80人の進路決定率は100%で、内訳として、雇用を含んだ就農が23人(29%:前年24%)、JA等農林業関係団体20人(25%:同31%)、民間企業が25人(31%:同32%)、公務員合格者9人(11%:同9%)、進学2人(3%:同4%)だった。就農割合の増加と、公務員が9名と多かったことが特徴である。</p> <p>2 森林コースを除く就農率は、近年20～30%と減少傾向となっている。うち雇用就農は70～80%で雇用就農者が増えている。</p> <p>3 経営者としての能力を高めるため、社会に出て経験を積んだ後に就農する学生もいる。</p> <p>4 近年、林業への就業率は60%を超えている。特に森林組合への就業者は増加しており、林業の担い手として期待されている。</p> <p>5 新型コロナウイルスの影響により、企業等の経営が厳しい状況であり、採用への影響が危惧される。</p>	(1年生) ・進路希望の把握と進路指導体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・進路方向の決定と進路別指導 個別面談 希望調査 ・進路ガイダンスによる指導(2回) ・就農・就業の促進 農林業法人説明会の開催(9月) ・就職活動支援 企業説明会の開催(3月) ・社会人としてのマナーアップ講座等の開催(2月) ・就農・就業(林業)への支援 農林業法人、森林組合への理解を深める ・海外研修への参加誘導 ・農業次世代人材投資資金(準備型)、 ・緑の青年就業準備給付金の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・全1年生を対象に校長面接(11月～12月) ・コースごとに三者面談を実施(12～1月) ・進路希望調査の実施(12月・3月) ・進路ガイダンス実施(1回) ・キャリアデザインⅠで進路指導(14回) 進路・ライフプランを考える 作文・スピーチ指導 雇用状況・労務管理 ストレスマネジメントなど ・農業法人等説明会(9/8)は、緊急事態宣言発令により中止 ・1年生を対象に進路内定者による報告会を実施(12/27)。 ・様々な県内合同企業説明会(対面、web)への参加の誘導と開催案内の掲示 ・1年生公務員希望者を対象としたWeb講習実施(3月) ・マナーアップ講座は、新型コロナウイルス感染症の影響から、講師側の申し入れにより中止とした。 ・農業次世代人材投資資金(準備型) 校内説明会(4/21):受給者0名 ・緑の青年就業準備給付金 コース内説明会(5月):受給者1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・全1年生を対象に校長面接(11月～12月) ・コースごとの三者面談(12～1月) ・進路希望調査の実施(12月・3月) ・継続して実施 ・継続して実施 ・農業法人等説明会、マナーアップ講座等の計画的な開催 ・就農、就業支援 特別講演会(六次産業化)の開催 ・給付金申請支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・全1年生の校長面談、継続をお願いします。 ・基本的なことは、高校にお任せして、農業にもっと特化していった方がよい。 	
			(2年生) ・きめ細やかな進路別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・就農者、雇用就農者、就業者への支援 農林業法人の情報収集と分析指導 就農・就業に向けた学内企業説明会の開催(9月) ・関係機関との連携強化(ハローワーク等) ・農業法人協会、農業経営士、農村生活アドバイザーとの連携 ・海外研修への参加誘導 ・就業後の職場定着に向けた取組 ・コロナ下における就活指導 ・農業次世代人材投資資金(準備型) ・緑の青年就業準備給付金の活用 ・就職活動状況の把握と支援 新型コロナウイルス感染症に対応したWebによる企業説明会、面接等の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・就農支援 農業法人等説明会(9/8:緊急事態宣言発令により中止)再掲 キャリアデザインⅡにおいて、名誉農業経営士1名、農村生活アドバイザー3名による講義 ・就職支援 面接試験対策として、各コース職員および校長による面接練習を実施(随時) ・群馬労働局からの求人情報の提供(随時) ・野菜コース1名がアメリカでの研修を実施予定(公益社団法人国際農業者交流協会) ・労働法及び年金についてのセミナーを開催(12/27) ・職場定着支援セミナーの実施(2/22 Web開催) ・様々な県内合同企業説明会(対面、web)への参加の誘導と開催案内の掲示 ・農業次世代人材投資資金(準備型) 校内説明会(4/21):受給者2名 ・緑の青年就業準備給付金 コース内説明会(5月):受給者3名 ・隔週開催のコース長会議において、内定状況の把握。 ・面接試験対策として、各コース職員および校長による面接練習を実施(随時)(校長面接 延べ43人)(再掲) ・キャリアデザインⅡにおいて、web面接における注意点について講義を実施 ・農林大スタジオ内に、Web面接用デスクを整備。(再掲) 6月以降27回の利用(就職面接10回、企業説明会等17回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・就農、就業支援 ・特別講演会(六次産業化)の開催 ・給付金申請支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのwebを活用した取組は評価できます。 ・これからの農業を担っていくであろう若者達に、私達、農村生活アドバイザーや経営士の話が少しでも刺激になればよいのですが、どうだったでしょう。農業も十人十色、自分に合った何かを見つけられれば、そして私達、先に農業を始めた人が少しでも、お役に立てればと思っています。 ・就農後の健全な経営ができるために農業簿記(青色申告)、また、雇用を考える人のためのノウハウを教える授業も考えてよいのではないかと。 	
			・専門資格取得教育の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・補講の実施 毒物劇物取扱者 危険物取扱者(乙4類) 日本農業技術検定2級 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・応用化学Ⅱ(補講)(4回:8名) ・応用化学Ⅰ(補講)(8回:29名) ・日本農業技術検定 各コースで補講 第1回(2級) 受験者 62名 合格者18名 合格率29%(前年17%) 第2回(2級) 受験者 16名、合格者 2名(1年生) (3級) 受験者 3名、合格者 2名(1年生) ・毒物劇物取扱者(10月) 受験者 4名、合格者 2名 ・危険物取扱者乙4(11月) 受験者 1名、合格者 0名 ・狩猟(わな猟)免許(2月) 受験者 20名、合格者18名 	<ul style="list-style-type: none"> ・応用化学の補講により、毒劇、危険物免許取得の支援を行う。 ・日本農業技術検定については、コースで補講を行う。 ・毒物劇物取扱者、危険物取扱者乙4、狩猟(わな猟)免許等の取得に向け積極的な支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補講の実施、ご苦労さまです。 ・補講までして面倒を見てくださるなんて、ありがたいことです。ご苦労様です。 	

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
		(数値目標と評価)		(2年生) ◎進路決定率 100%	・進路決定率 100%(3月31日現在)	A		<p>・進路決定率の高さは、入校のインセンティブになります。引き続き、高水準を維持できるようご尽力してください。</p> <p>・就農率、就業率を高めるため、卒業生の事例集なども作成してはいかがでしょうか。素晴らしい経営を実現したり、意欲的に取り組んでいる若者の事例をデータベース化しておくのも大切かと感じました。</p>
				◎就農率 40%以上	・就農率 43%(森林コース除く)。34%(全体)	A		
				◎林業関係の就業率 60%以上	・就業率 50%(森林コース)	B		
				◎日本農業技術検定(2級)の資格取得者割合 30%以上	・2級資格取得者割合 32%(森林コースを除く2年生)	A		
				◎合格率 毒物劇物取扱者 30%以上 危険物取扱者(乙4類) 30%以上 農業機械系資格 100% 狩猟(わな猟)免許 100%	・毒物劇物取扱者 50% ・危険物取扱者(乙4類) 0% ・機械系資格 100% ・狩猟(わな猟)免許 90%	B		

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見																																																											
4	県民の期待に応えられる研修の実行	<p>1 令和2年度の農業実践学校は、定員136名を超える168名の応募があり、書類選考と面接により149名の入校が決定したが、4つのコースが感染症のため中止となり修了者数は86名であった。なお、野菜専門技術課程の修了生は、全員が営農計画を策定し就農することができた。また、修了3年後(平成29年度実践学校各課程修了者)の就農状況は、86%の方が農業に従事している。</p> <p>2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。そのうち免許取得研修は、新規導入トラクターの効率的な運用により、日数を短縮して実施している。なお、道路運送車両法の運用緩和により、免許取得研修の希望者が多くなっている。</p> <p>3 令和2年度の公開講座は、前後期で8講座を予定していたが、新型コロナウイルス対策の影響で全て中止となった。令和3年度は、対象を野菜に絞った3講座を予定している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営 ・新型コロナウイルス対策を講じた研修の実施 ・研修生の確保に向けた取り組みニーズに対応した課程の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対策を講じた研修の実施 ・研修生の確保に向けた取り組みニーズに対応した課程の充実 ・JA等と連携した担い手の育成 JA、市町村への実践学校PR 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策指針に従い対策を徹底 ・緊急事態宣言時は、研修生の人数を半分とする分散研修を実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">単位:人</th> </tr> <tr> <th>課程</th> <th>定員</th> <th>応募者</th> <th>入校者</th> <th>修了者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>野菜専門技術課程</td> <td>20</td> <td>37</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>野菜基礎技術課程</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>春夏野菜平日コース</td> <td>22</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>〃 日曜コース</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>19</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>秋冬野菜平日コース</td> <td>22</td> <td>27</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>〃 日曜コース</td> <td>22</td> <td>33</td> <td>22</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>推進品目課程</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>トラクター操作講座</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>農業体験講座</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>136</td> <td>171</td> <td>131</td> <td>124</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・研修満足度(おおむね満足以上) 96% ・就農に向けた体系的な研修の実施 各課程の修了者について就農状況調査を実施 ・本年度の研修生は、研修修了後に98%が就農予定 平成30年度修了の研修生(修了3年後)を対象としたアンケートでは就農率が88% ・募集PR(各JA、市町村へパンフレット等の配布とホームページ) 	単位:人					課程	定員	応募者	入校者	修了者	野菜専門技術課程	20	37	20	18	野菜基礎技術課程					春夏野菜平日コース	22	19	22	22	〃 日曜コース	22	23	19	18	秋冬野菜平日コース	22	27	22	22	〃 日曜コース	22	33	22	20	推進品目課程	10	14	11	9	トラクター操作講座	10	13	10	10	農業体験講座	8	5	5	5	計	136	171	131	124	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策の継続 ・受講者への意識調査を行い、改善案を検討 ・研修生確保に向けJA、市町村との連携を継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進農家等への訪問をし、現場の意見や悩み、要望などがあれば研修生自らと照らし合わせてもらい考えてもらう。 ・定員を上回る応募者があり、131名の入校者への研修実施は、コロナ対策の中、大変だったと思います。 ・農業の多様な担い手の入り口になっていると思います。修了3年後の高い就農状況もそれを物語っているのだと思います。より実践で学ぶことができ、自分のこれからの青写真が描けるからなのでしょう。大いに期待しています。
						単位:人																																																													
						課程	定員	応募者	入校者	修了者																																																									
						野菜専門技術課程	20	37	20	18																																																									
						野菜基礎技術課程																																																													
						春夏野菜平日コース	22	19	22	22																																																									
						〃 日曜コース	22	23	19	18																																																									
						秋冬野菜平日コース	22	27	22	22																																																									
						〃 日曜コース	22	33	22	20																																																									
						推進品目課程	10	14	11	9																																																									
トラクター操作講座	10	13	10	10																																																															
農業体験講座	8	5	5	5																																																															
計	136	171	131	124																																																															
<ul style="list-style-type: none"> ・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施 ・農林業に対する理解を深める公開講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対策を講じた研修の実施 ・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得 免許取得研修の効率化 ・スマート農業機械を用いた研修 ・農作業安全研修等の実施 就農者育成のため、農業事務所、JA等と連携した研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策指針に従い対策を徹底 ・取得希望者の増加への対応として、昨年度から実施回数の増加(けん引を合わせて9→12回) ・班分けにより受講時間の短縮 大型トラクター基礎研修 (10回/141名) 大型トラクターけん引研修 (5回/33名) 2月末時点 ・農作業安全研修やトラクター基礎研修内でスマート農業機械を用いた研修を実施 17回 ・運転免許講習にて安全研修を実施 11回 ・学生等に機械安全研修を実施 5回 ・就農者育成研修として実施 15回 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策の継続 ・増加が見込まれる免許取得希望者に対応して、実施回数を増やす ・農作業安全研修とスマート農業機械を用いた研修を継続して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、農業機械研修を12回実施したこと、評価できます。 ・農業機械研修は本当に役立っています。ありがたいです。 ・農作業事故が多い中、トラクター研修の回数増加はタイムリーかつ重要な対応だと思います。また、安全利用研修にも積極的に取り組んでいただいでおり、引き続き取組を強化してください。 																																																															
					(数値目標と評価)	◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上 90%以上	・評価「おおむね満足以上」 96%(修了課程の平均)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもよいです。これからもよろしく願います。 ・高い研修満足度と定員確保率を維持しており、学生教育との両輪として大学の存在感を高めています。引き続き、県民のニーズを的確に捉え、実践的な研修に取り組んで欲しいと思います。 																																																										
						◎実践学校研修生の定員確保 100%	・定員確保率 98%(入校者133名/定員136名)	B																																																											
◎実践学校修了時の就農率 野菜専門技術課程 100% 実践学校全体 95%	・就農率 野菜専門技術課程 95% 実践学校全体 98%	B																																																																	
◎実践学校修了3年後の農業従事率 80%	・農業従事率 88%	A																																																																	
◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100%	・合格率 100%	A																																																																	
◎スマート農業機械研修の開催回数と受講者数 17回/188名	・受講者数 17回/249名	A																																																																	
◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 20回/200名	・受講者数 31回/389名	A																																																																	
◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上	公開講座の開催は中止	-																																																																	